

## 最近見聞きした おもしろいこと

韓国のソウルでみた演劇。

「ナンタ」や「トッケビ」と並んで、今ソウルで話題の舞台。テコンドーをベースにしたコメディで、チラシには「マーシャルアーツパフォーマンス」と書いてあった。役者の何人かは、おそらく元体操選手ではないかと思われる。床の演技のような宙返りがふんだんに取り入れられていて、テコンドーの型や棒術の演技も迫力がある。しかし、基本はコントの連続のようなお笑いで、「肥後にわか」や「吉本新喜劇」のような、ほのぼのとした味もある。違う点は、セリフが極端に少なく、韓国語を理解できなくても全く問題ないところ。言語によらないノンバーバルパフォーマンスである。最初から国際的に売れるものを狙って作っている。

昨日、イギリス帰りの若い女性に聞いた話。

乳牛の乳首の数は普通4つだが、品種改良して6つにした牛がいるらしい。そのほうが、搾乳の効率がよいからだと言う。にわかには信じがたいのでグーグルで検索してみた。キーワードは、「乳牛の乳首 6つ」。・・・北海道の酪農家の間では、野生化したアライグマが牛の乳首を噛み切るというショッキングな出来事が起きているようだ。

牛乳の消費量は減っており、熊本県内でも、私たちが知らないところで牛乳の生産調整が行われている。酪農家に割り当てて、絞った牛乳を廃棄させているらしい。大規模経営をしているところほど大変で、ある酪農家は1日5トン、20日で計100トン廃棄せざるを得なかったらしい。畑に穴を掘って棄て、そこに乳酸菌を入れてヨーグルトにしてから堆肥にするという。100トンの廃棄による損失額は800万円。この酪農家は、従業員も抱えており、結局800万円の借入れをしたそうだ。もし乳首6つの牛がいるとしたら、「私をこんな姿にした上で、お乳を廃棄するとは何事だ！」と怒りを表すだろう。MOTTAINAI！！

農業技術者は、時にとんでもないことをする。豚のロース肉をたくさん取るために、極端な胴長の豚を品種改良で生み出したことがあるそうだ。これは、本物を見たという研究者から聞いた話。胴長化には成功したが、大人になると腰が萎えて立ち上がれないので、結局開発をやめたらしい。ホテルのように鼻の先が光る豚も作れるそうだ。その発想が凄すぎる。

長いと言えば、おめでたい名前の寿限無。

何がめでたいかというと、寿(ことぶき)が限りない。つまり、寿命が長いということ。そんな意味の言葉をつなげると「寿限無寿限無五劫のすりきれ、海砂利水魚の水行末雲来末風来末、食う寝るところに住むところ、ヤブラコウジのブラコウジ、パイポパイポパイポのシューリンガン、シューリンガンのゲーリンダイ、ゲーリンダイのポンポコピーのポンポコナーの長久命の長助」となる。

外国では、画家のピカソがおめでたい。彼の名は、「パブロ・ディエゴ・ホセ・フランシスコ・デ・パウラ・ホアン・ネボムシーノ・マリア・デ・ロス・レメディオス・シブリアーノ・デ・ラ・サンティシマ・トリニダッド・ルイス・ピカソ」らしい。